

第II輯 第63巻 第4号 1985年8月

- 林 良一：波動-平均流相互作用の Eliassen-Palm 解析についての理論的解釈 第1部：地表境界条件の効果
 林 良一：波動-平均流相互作用の Eliassen-Palm 解析についての理論的解釈 第2部：Mean damping の効果
 宮原三郎：大気中の内部重力波による平均流生成について
 余田成男：表面地形を含む準地衡順圧低次モデルの分岐特性
 中村 一・堂谷忠靖：チベット高原のまわりのコールド・サージのケルヴィン波的性質に関する数値的研究
 時岡達志・山崎孝治・千葉 長：1983年初夏の海面水温異常に対する大気の応答：数値実験
 二宮洸三・山岸米二郎・大野久雄・三浦信男・古賀晴成：1983年4月27日東北地方で発生した乾燥強風の解析と数値予報実験
 新田 勲：夏期モンスーン実験期間中、アラビア海上部対流圏で見出された波動擾乱
 E.C. Kung and H. Tanaka：高層観測資料と海面温度を用いた重回帰的手法による気温および降雨量の長期的予測
 近藤純正・三浦 章：1979年5月の西太平洋の海面熱収支解析
 蘇 鮮燮：アラカワ-シュバート積雲パラメタリゼーションに適用した梅雨期における積雲対流の役割についての解析 第I部：熱及び水蒸気の収支
 蘇 鮮燮：アラカワ-シュバート積雲パラメタリゼーションに適用した梅雨期における積雲対流の役割についての解析 第II部：アラカワ-シュバート積雲パラメタリゼーションモデルへの適用
 P. Singh, T.S. Verma, K.C. Mathpal and N.C. Varshneya：雷雲中の電荷発生過程及び降水形成過程における庶蔽効果の役割

要報と質疑

- T.C. Chen and M.C. Yen：大気傾圧・順圧流の運動エネルギー収支解析に関するノート
 山田信夫：乱流の2次モーメント方程式における圧力項のモデルとその接地気層への適用

第19期日本学術会議地球物理学研究連絡委員会

標記の第1回の委員会が9月11日に日本学術会議において開催されたので、次の通り報告します。

- ① 委員長に沢田龍吉氏（日本学術会議会員）、幹事に大林辰蔵氏（文部省宇宙科学研究所，地球電磁気学）を選出した。
- ② この委員会の委員は、上の2委員のほかにつぎの7名である：

浅田 敏（日本学術会議会員）、中川一郎（京大・理，測地学）、鈴木次郎（東北大・理，地震学）、梶浦欣二郎（東大・震研，海洋物理学）、樋口敬二（名大・水圏研，陸水物理学）、横山 泉（北大・理，火山物理学）、山元龍三郎（京大・理，気象学）
- ③ この委員会の主な目的は、
 - (a) IUGG の国内対応体としての機能を果たす。
 - (b) 国内の地球物理学の諸分野の連絡・調整を行う。
 - (c) 地球物理学全般に関する重要事項を審議する。
- ④ 研究連絡委員会に以前に付置されていた『大気電

気小委員会』などの「小委員会」を、今後の改革では、原則として設置しないとされている。引き続き今期においても設置するようとの要望が、当研究連絡委員会などから既に出されているが学術会議として未だ結論を出していない。当委員会でも設置の希望が強いので、「小委員会」に関する第4部などでの審議において、会員が尽力されることを希望する。

- ⑤ 第19回 IUGG 総会は1987年8月9～22日に Canada の Vancouver で開催の予定。“First Circular”の必要の方は次のいずれかへ、連絡されたい：

IUGG Conference Secretariat, c/o Venue West,
 801-750 Jarvis St. Vancouver B.C., Canada V6E 2A9

または 〒607 京都市山科区北花山大峰町17-1
 京都大学気候変動実験施設

山元龍三郎 宛